

## 8 鳥取市独自の研修についてのQ & A

番号	質問内容	頁	
<b>&lt;中核市としての教職員研修&gt;</b>			
Q1	鳥取市独自の研修は、どのようなことに重点をおいているのですか。	10	
Q2	中堅教諭等資質向上研修及び6年目研修を中心とする目的と期待される効果は何ですか。		
Q3	昨年度（令和3年度）の研修との違いは特にどんなところですか。		
Q4	8ページ（及び38ページ）の脚注に「県講座を読み替えて市講座を受講する」とありますが、両方に出席するのですか。		
<b>&lt;幼保小中連携&gt;</b>			
Q5	幼児教育からの連携が大切だと言われています。幼保小中連携研修の意義やねらいは何ですか。	11	
<b>&lt;管理職研修&gt;</b>			
Q6	管理職研修は、研修内容が「危機管理」及び「学校組織マネジメント」になっているのはなぜですか。		
<b>&lt;研修受講&gt;</b>			
Q7	各種手続き（受講希望、欠席・遅刻・早退、受講者変更）はどうしたらよいですか。	12	
Q8	研修を欠席した場合、動画を視聴して後日受講することは可能ですか。		
<b>&lt;研修資料、成果物&gt;</b>			
Q9	研修資料のデータ（動画を含む）を各校で活用できるようにしてはどうですか。	13	
<b>&lt;研修成果の還元&gt;</b>			
Q10	研修からヒントを得て、いろいろなアイデアが浮かびますが、それをどのように活かしていけばよいのでしょうか。		
Q11	研修の成果還元について、どのように把握するのですか。		
<b>&lt;研修形態&gt;</b>			
Q12	シラバスの研修形態には、「集合研修」「遠隔研修（各校）」「遠隔研修（会場校）」等がありますが、どのような違いがありますか。	13	
Q13	今後の研修も遠隔研修で行われるのでしょうか。		
Q14	「遠隔研修（会場校）」がありますが、会場校はどのように決めているのですか。		

## <中核市としての教職員研修>

**Q1 鳥取市独自の研修は、どのようなことに重点をおいているのですか。**

A1 ➡ 中堅教諭等資質向上研修及び6年目研修を中心として、鳥取市全教職員が「魅力」と「徹底」による学力向上、豊かなかかわりによる自己有用感の育成、一人一人の教育的ニーズに対応した教育にベクトルをそろえた研修を受講できるようにしています。詳しくは、「鳥取市教職員研修の基本方針」のP1～P8を参照してください。

**Q2 中堅教諭等資質向上研修及び6年目研修を中心とする目的と期待される効果は何ですか。**

A2 ➡ 今年度も6年目研修を充実させています。全国的に、採用後早い段階から様々な教育課題に対応する力をつけることが必然となってきています。そこで、鳥取県公立学校の校長、教員及び教職員としての資質の向上に関する指標（P46～P48）の「向上期」スタートにあたる6年目教諭、「充実期前期」スタートにあたる中堅教諭（11年目教諭）を学校力アップの「推進力」と位置づけ、コラボ研修を含め研修の充実を図りました。それに伴い、新しい発想や行動力による学校の活性化、教職員のモチベーションのさらなる向上、校内OJTの促進等が効果として期待されます。

**Q3 昨年度（令和3年度）の研修との違いは特にどんなところですか。**

A3 ➡ 昨年度の研修の振り返り等をもとにして、本年度の研修の内容や形態を見直しています。

初任者研修等では、初任者が教育公務員としての責務や使命を自覚し、めざすべき教師像にむけて学び続ける意欲をもち、鳥取市に根ざした教職員として人と人とのつながりを大切にしながら教育実践を重ねていただけるよう研修内容を変更しています。本年度から、教育分野以外からも講師を選定し幅広い知見を深められるようにしています。また、鳥取市の教育の現状をよく知っておられる大学等からも講師選定しています。

ICT活用研修は、オンデマンド形式で実施します。すべての教職員が受講可能です。

**Q4 8ページ（及び38ページ）の脚注に「県講座を読み替えて市講座を受講する」とありますが、両方に出席するのですか。**

A4 ➡ 中核市である鳥取市が主体となって教職員研修を実施しています。鳥取県との協定により、鳥取県教育センターの基本研修・職務研修のうち、見え消し線で示している研修を受講することはできません。詳しくは、「県市研修受講登録対照表」（P38）を参照してください。

## <幼保小中連携>

**Q5 幼児教育からの連携が大切だと言われています。幼保小中連携研修の意義やねらいは何ですか。**

A5 ➡ 令和元年度から「幼保小中連携研修」を実施しています。（P 3 2）一人一人の教育的ニーズに対応した教育の視点で、幼稚園・保育園・認定こども園と小・中・義務教育学校の教員と一緒に研修します。子どもの発達段階に応じた支援を行い、校種をこえて子どもの育ちをつないでいくことで、切れ目のない支援につながります。本年度は、校内のマネジメントに生かしていただくよう教務主任の悉皆研修としています。なお、中堅教諭等資質向上研修の企画選択研修に保育体験活動を位置付け、幼児の実態把握、支援・指導の在り方等を理解しながら、保育・幼児教育と義務教育をつなぎ、子ども理解を深めるようにします。

## <管理職研修>

**Q6 管理職研修は、研修内容が「危機管理」及び「学校組織マネジメント」になっているのはなぜですか。**

A6 ➡ 近年、頻発する自然災害等や児童生徒を取り巻く事故対応等、児童生徒の安心安全を守る危機管理は、管理職にとって、ますます重要な研修と内容となっています。また、若手教員が増加するため、より人材育成や学校組織マネジメントに係る知見を得ることで、学校づくりに生かし実践していただきたいと考えます。

## <研修受講>

**Q7 各種手続き（受講希望、欠席・遅刻・早退、受講者変更）はどうしたらよいですか。**

A7 ➡ 教職員研修ガイド「IV 研修の手続き及び留意事項等」（P 3 5～P 3 8）を参照してください。各種届は学校業務支援システム（C4th）書庫の下記フォルダに掲載していますので、ダウンロードして活用ください。

（書庫➡鳥取市➡03\_鳥取市総合教育センター➡01\_鳥取市教職員研修➡03\_R4\_各種様式等）

**Q8 研修を欠席した場合、後日、動画を視聴することは可能ですか。**

A8 ➡ 後日、動画を視聴することは可能ですが、出席扱いにはなりません。講師のご都合やシステム上の制約で講義を録画及び配信できない場合もあります。録画した動画は接続状況が不良のため画像や音声が乱れ、受講が十分できなかった受講者を対象にあくまでも研修の補完として配信するものです。

## <研修資料、成果物>

**Q9 研修資料のデータ（動画を含む）を各校で活用できるようにしてはありますか。**

A9 ➡ 著作権に配慮し、原則として研修資料データ（動画を含む）は本研修時のみの使用とします。校外での研修会等で複製を配布したり、編集して二次的に使用したりすることはできません。

遠隔研修の場合、講義を録画した動画を限定配信する場合がありますが、限定配信された動画を撮影及び録画・録音することはできません。

## <研修成果の還元>

**Q10 研修からヒントを得て、いろいろなアイデアが浮かびますが、どのように活かしていけばよいのでしょうか。**

A10 ➡ 「研修で学校が変わる」といわれるとおり、学校にとって教職員研修はとても大切なものです。研修から得たアイデアを活かすことは、自らのキャリア形成や学校力アップの鍵となります。あなたのアイデアを「研修と学校をつなぐMyアイデアシート」（P7）に整理して自分の業務に活かし、2～3人の小さな輪から学校全体の大きな輪へと広げていく学校力アップの取組を進めていってほしいと思います。それが「研修と学校をつなぐ」ことにつながっていきます。（P6参照）

**Q11 研修の成果還元について、どのように把握するのですか。**

A11 ➡ 全教職員を対象に成果還元に関するアンケート調査を行います。

中堅教諭等資質向上研修対象者の在籍校については、学校訪問（11～12月頃）による聞き取りを行います。

アンケート調査結果と学校訪問による各学校での取組状況は、次年度のよりよい研修実施のための資料とします。

## <研修形態>

**Q12 シラバスの研修形態には、「集合研修」「遠隔研修（各校）」「遠隔研修（会場校）」等がありますが、どのような違いがありますか。**

A12 ➡ 令和3年度の実績に基づき、研修のねらいを達成するための効果的な研修形態をバランスに考慮しながら設定しました。各形態は次のようになります。

- ・「集合研修」  
指定された会場に集合します。講師と対面（もしくは遠隔）で受講します。
- ・「遠隔研修（各校）」  
各校で遠隔で受講します。
- ・「遠隔研修（会場校）」  
指定された会場校に少人数で集合します。遠隔で受講します。
- ・「オンデマンド研修」  
期間内であれば、日時や場所を選ばずにいつでも遠隔で受講できます。

**Q13 今後の研修も遠隔研修で行われるのでしょうか。**

**A13** ➡ 目的に応じて、集合研修または遠隔研修を行います。また、新型コロナウイルス感染症等の状況によっては変更や中止もあります。研修形態等については、各研修の開催要項で確認してください。

遠隔研修については、講師と受講者、受講者同士の双方向のやり取りができる遠隔研修等、より効果的な受講形態や受講意欲を高める研修の進め方等を工夫していきます。

**Q14 「遠隔研修（会場校）」がありますが、会場校はどのように決めているのですか。**

**A14** ➡ 研修のねらいを達成するために少人数での受講が効果的な場合には、「遠隔研修（会場校）」で実施します。会場の準備等、会場校にはご負担をお掛けします。

会場校の選定につきましては、研修のねらいをはじめ受講者の移動や、駐車場の確保等を総合的に判断して、依頼をさせていただきます。ご協力をお願いします。